

# 最後に勝つ 塾選び

**本当の学力を伸ばすのは？**

あなたの目的は、超難関校に子どもを合格させること？  
今わからない教科の補習をしてもらうこと？  
それとも、「なぜか」を読み解く力を、ゆっくり育てる？  
塾の新生獲得競争まっ盛り。でも、合わない塾は悲劇。  
子どもの力を伸ばす「勉強の場」を、選ぶには――。

ライター 樋田敦子 写真 鈴木愛子



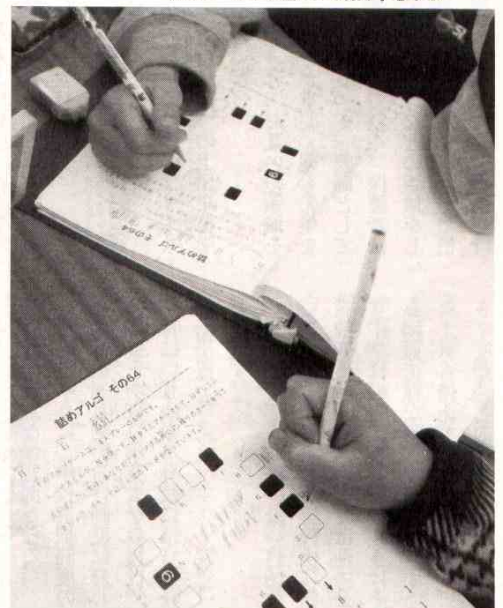
一人息子のユウスケくん(12)が、公立小から私大の付属中学に進学を決めて、東京に住む会社員マリさん(42)は、胸をなで下ろした。「それにしても、塾を3カ所も渡り歩くことになるのは、思いませんでしたけれど」

ユウスケくんが塾に通いたいと言いつ出したのは、小学3年の終わりだった。サッカーチームで仲の良い友達が、中学受験を決めて、有名な大手受験塾に通い始めたからだ。それまでユウスケくんは、サッカー一辺倒の少年だった。

「放課後に学童クラブで宿題をするのがやっつ。市販のドリルも私がついていけばやる、80点取れたらすごい!と喜んでいる程度でした。でも本人が行くというので、塾のテストを受けて通い始めたんですが……」

初めこそ、友達と一緒に電車で楽しく塾へ通っていたが、3カ月もたつと、塾長から「落ち着きがない」「私語が多い」などと注意を受けるようになった。相当のスピ

プリントで、「詰めアルゴ」。詰め将棋風の4人対戦ゲームで、□に入る数を予想する



ードで授業が進み、分からないと置いていかれる。家でも塾の宿題に追われて、成績によって席が移動する日々疲れきった様子だった。

「いつも元気な子ですが、目をばちばちさせて。チック症状が出てきて、塾がストレスになっているんだなと感じて、半年でやめさせました」

とマリさん。それでも、私立中

学に行つてサッカーをやりたいとユウスケくんが望むので、近所にある大手フランチャイズの学習塾に通わせた。ここは先生がベテランで、「ユウスケくん、もう少しやってみようか」などと根気よく指導してくれたという。

## 成績と性格見極めて

1時間の授業も集中して聞き、宿題も自らやるようになった。相性がよかったのか、めきめき成績は上がり、「これなら受験塾でも大丈夫」と太鼓判を押されて、5年生から受験塾に移った。

「大手は懲りたので、家から歩いていける、実績のある小規模の受験塾に通わせて、志望校に合格しました。学習習慣のない野生児みたいな子を、一気に大手受験塾に入れたのが無謀でした」

主婦のミキさん(38)は公立小5年生の長女ユカちゃん(11)を、近



所にある元小学校教師が経営する個人塾に、2年前から通わせている。

「確実に成績が上がるといふ評判もあって通わせましたが、今年から方針を変更したようで、受験させて実績をあげようとしているんです。うちは受験するつもりはないんですが「ユカちゃんなら、御三家も狙えます」と懇談で勧めてくる。補習のために入れたので、塾を替えようかと検討中です」

お友達が行っているから、有名校の合格者数が多いから、「うちの子」にもいい——とは限らないのが、塾。親子でうまく選ばないと、お金をむだにするばかりか、子どもの精神状態にも影響を及ぼしかねない。

「子どもの「底力」が育つ塾選び」(平凡社新書)の著書がある、塾主宰者で教育評論家の小宮山博仁さん(57)は、

「大手の塾に通わせたものの、親子ともども疲れきって、少人数の塾に移るケースは、よくあります。友達が行くから通わせるといふのは間違いです。成績と子どもの性格をよく考えた上で、塾を選んだほうがいい」と言い切る。

### 「合格〇〇人」よりも

塾にも、さまざまな形態がある。補習塾に受験塾(進学塾)。それを併せ持つ総合塾。大手塾に対して、地域密着型の小規模塾もある。

「成績が中程度のお子さんは、一

斉授業で一方通行の受験のための塾は、99%無理です。気の弱い子は、少人数で、面倒見がよくて、質問できる塾が適しています」

たとえば根気がない子や、粘り強くても勉強がかなり遅れている子なら、まずは学習習慣をつけてくれる少人数の補習塾がいい。落ち着きがなくても成績がよければ、問題の数をこなしていくうちに落ち着いてくることも多いので、受験塾や総合塾でもやっていけると小宮山さんは言う。

「さらに、学校で算数や国語のテストがいつも100点で積極的に取り組める子ならば、点数で競わせる進学塾でもレベルに乗って合格を勝ち取れるでしょう」

中学受験塾に行くような場合も、

### アルゴクラブ

勉強と思わずにゲームをやって遊んでいるうちに論理的思考ができるセンスを持っている。論理的思考を問うものは、入試でも出題される

気をつけることがある。

大手の塾なら、人数が多いので情報がたくさん集まり、的確な進路指導ができるというメリットもある。が、一方で、チラシに御三家200人とあっても、うのみにしてはいけないという。

「塾に在籍している子が2000人いるとしたら、あとの1800人はどこへいつているのかを考えなければいけません。数字を前面に出している塾は、特定の有名中学に合格するために勉強するとい

うところがが多い。そういうのは「外発的動機付け」といって、100点取ったら何か買ってあげる。と親が言うのと同じように、本来の勉強の目的とはちがいます。ずっとそれで進んだ子は大学に入ると学ぶのをやめてしまう。中学受験のために「問題ができる」ようになるのではなく、「しくみがわかる、理解する」を主眼に教えてくれる塾を選ぶのがいいでしょう」

例えば塾の説明会に行つて、どういう教え方をするのか聞いてみる。1・2×1・3の場合、小数点を二つ移動させる、と機械的に教えるのではなく、原理をきちんと教えてくれるかどうかをチェックする。

「また小学生で学力が向上しない、成績が悪いというお子さんは、例外なく言語能力に問題がある。低学年のうちに、本を読み、文章を書く習慣づけをしていると、いざ受験で、理科や社会でたかさんの言葉が出てきても吸収できます」

### 数学的思考力やしなう

考える力を刺激するような勉強の場合は、どんなところがあるのだろうか。ちょっと変わった教室を訪ねてみた。

さいたま市の花まる学習会。月に3回、土曜日になると、算数の「アルゴクラブ」に小学生の子どもたちがやってくる。片道2時間近くかけてくる小2父子もいる。

「さあ、息を吸って、吐いて。姿勢をきちんとして、あいさつをし